

高橋病院 新卒看護師教育プログラム														
基本的な進行	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
基本的な進行	○集合研修 ○IT実習・ケア見学・一部参加型 ○自動のみ・定期的な業務終了	○受持ち：前1～2名 ○後2～3名 ○必ずプリセプターがフォロー ○自動のみ・定期的な業務終了(後半、休日勤務の導入)	○受持ち：5～6名 ○必ずプリセプターがフォロー ○自動のみ・定期的な業務終了	○受持ち：7～8名 ○必ずプリセプターがフォロー ○自動のみ・定期的な業務終了	○自動受け持ち10名程度 ○受持ちの導入(人員は1名) ○必ずプリセプターがフォロー	○基本技術の習得状況に合わせた(自動・夜勤ともに)受け持ちの数、患者の重症度を上げていく ○必ずプリセプターまたは、スタッフのフォローをつける	○触り立ち ○ただし、未習得の技術・1年は1人では行わない技術については、確認しながら行う							
0	環境調整技術	○ベッド周囲の環境整備(温・湿度、換気、照明、臭気、騒音、病室整備) ○基本的なベッドメイキング ○基本的なナース交換												
1	食事援助技術	○食事援助の食事の理解 ○対象の個別性に応じた食事の工夫と援助 ○経管栄養法を手順に基づいて安全に実施(栄養剤、流動食の注入)	○経管のリスクをアセスメントした上での食事介助(援助)									栄養士の技術項目		
2	排泄援助技術	○尿管、尿管を介する介助 ○オムツ交換 ○留置カテーテル挿入と観察(尿の色・量等) ○換尿 ○記録 ○感染										○尿管のリスクをアセスメントした食事の工夫 ○栄養剤状態・体温・電解質バランスのアセスメント	○尿管内の吸引 ○尿管管理療法	
3	沐浴援助技術	○沐浴、身体を介する介助 ○オムツ交換 ○留置カテーテル挿入と観察(尿の色・量等) ○換尿 ○記録 ○感染											○創傷(手術創を含む)処置の介助と観察 ○褥瘡の処置と観察	
4	活動性援助技術	○患者手での安全な介助・移送 ○ストレッチャーでの安全な介助・移送 ○良肢位の保持 ○ボディアメカニクス知識や技術をを用いた体位交換 ○食事・排泄・沐浴・経管等の援助を考えた肢位の置き換え											○気道確保 ○口腔内の観察と異物除去 ○人工呼吸の準備と方法 ○心電モニター ○止血の介助 ○除動器の準備と	
5	清潔な生活援助技術	○清拭 ○臥床 ○口腔ケア ○陰部ケア ○対象者の個別性に応じた部位浴 ○入浴時の援助、○*褥瘡交換などの衣食生活支援(臥床患者) ○*褥瘡交換などの衣食生活支援(転倒等挿入患者)											○気管挿管の準備と介助	
6	呼吸管理を要する技術	○酸素吸入療法中の管理(対象の観察、指示量や加減、接続の確認) ○口閉鎖・鼻閉吸引 ○体温調整方法の実施(+準備のリスクを考えた温電法・冷電法) ○ネブライザーの実施											○心電図(12誘導)の測定	
7	薬物管理技術	○薬物の取り扱いができる											○無菌的な気管吸引	
8	処置技術	○消毒、原則に基づいた手洗 ○口腔ケアの準備 ○外用薬の塗布(点眼、塗布、点鼻など) ○皮下注射 ○皮下内注射 ○皮下内注射 ○点滴注射の準備・介助・管理 ○輸液ポンプの準備と管理 ○抗生剤の種類、用法と副作用についてのアセスメント ○インスリンの種類、用法と副作用についてのアセスメント ○止血の種類と特徴、処置・取り扱い	○向幹体薬の注・副作用の観察・取り扱い ○心臓ペースメーカーの準備と介助・管理										○人工呼吸器(マスキ人工呼吸器および非マスク人工呼吸器)の操作 ○経管挿入内挿管吸引の操作 ○人工気道の種類や吸引の仕方・機能・評価 ○経管の構造を把握した上での人工呼吸器装着 ○患者のケア・気管切開患者のケア	
9	救命救命処置技術	○意識レベルの観察 ○呼吸状態の観察 ○脈拍の観察 ○チームメンバーへの応援要請 ○緊急カーットの場所と物品内容の把握											○気道確保 ○口腔内の観察と異物除去 ○人工呼吸の準備と方法 ○心電モニター ○除動器の準備と必要時の処置 ○止血の処置	○呼吸の観察 ○人工呼吸器の準備と方法 ○心電モニター ○除動器の準備と必要時の処置 ○止血の処置
10	観察・身体機能管理技術	○呼吸、脈拍、体温、血圧測定値の記録、記録と報告 ○身長、体重を正しく測定 ○身長、体重測定値の評価(栄養状態や発達の状態) ○観察した現状、アセスメントの記録と報告 ○採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い ○血糖測定と検体の取り扱い	○静脈血の採血と検体の取り扱い ○24時間持続心電図モニターの管理										○自動血圧計(血液ガス、糖質)の準備と検体取り扱い	
11	安全確保の技術	○対象に合わせた)安楽な体位の保持												
12	感染予防の技術	○スタンダードプリコーション(標準予防策)が実施できる ○洗浄・消毒・滅菌のうち、適切な方法の選択 ○適切な手洗い方法(石鹸使用)「ワグン、手洗、ゴグル」などの使用方法 ○使い捨て注射器、注射針、刃などの消毒・滅菌の準備と管理												
13	安全管理の技術	○当該施設における医療安全管理体制の理解 ○対象に応じた処置 ○インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告											○対象者に合わせた適切な温電法・冷電法の実施 ○対象者に合わせたリラクゼーション(指圧・マッサージ・電療)の実施	
14	管理的側面	○情報管理 ○災害・防災管理 ○物品管理 ○感染管理												
15	基本姿勢	○看護職としての自覚ある行動 ○患者、家族との良好な人間関係 ○職場における倫理的態度 ○生涯における主体的な自己学習の継続												
評価	IT評価	○ベッドからストレッチャーへの移動 ○臥床患者のシーツ交換 ○臥床患者の全身清拭 ○酸素吸入 ○経管吸入(酸素ボンベ) ○経管血糖測定 ○呼吸器 ○呼吸器 ○呼吸器 ○呼吸器	○かんネブライザー ○床と患者の移動										○吸引 ○気管吸引 ○酸素吸入 ○心電図モニター	
評価	集合研修													
評価	実技	○体位交換と移送 ○呼吸器(注)の管理 ○食事援助の援助	○災害対策											
評価	実技	○看護職員としての基本的姿勢 ○体位交換 ○経管吸入	○看護倫理 ○教育と指導											
評価	メンタル	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長	(個別対応) 業々に特長		
目的	1. 病状の観察と管理について理解できる 2. 看護職の役割と責任について理解できる	1. 看護職の役割を知り、看護職の役割を考慮することができる 2. チームメンバーの支援を受け、チーム一員としての行動をとることができる												
評価	1. 病状および看護職の概念、方針、目標を理解できる 2. 看護職と患者の関わりについて理解することができる 3. 安全で確実な看護実践、責任ある行動の基本を理解できる 4. 病状の観察と管理としてのマナーの基本や行動規範を知り実践できる 5. 医療安全の考え方を理解し実践について理解することができる 6. 看護職がチーム医療の概要を知ることができる	1. 看護職の役割を知り、看護職の役割を考慮することができる 2. スタッフ・患者とのコミュニケーションをとりながら実践になれる 3. 基本的看護実践を実施することができる 4. 看護の実践をどうして看護記録の考え方が理解することができる 5. チームの一員として報告・連絡・相談をすることができる 6. 心身ともに健康でいられるよう体調の管理をすることができる	1. 看護職の役割を知り、看護職の役割を考慮することができる 2. チームメンバーの支援を受け、チーム一員としての行動をとることができる											
評価	4月 ○看護部、教育担当会議 (毎日実施)	5月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ・新卒看護実践 ○プログラム運営委員会 ・プログラム運営委員会 ○部長との目標管理 (能力開発会議)	6月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・プリセプター評価 ○プログラム運営委員会	7月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ○プログラム運営委員会	8月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ○プログラム運営委員会	9月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ○プログラム運営委員会	10月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ○プログラム運営委員会	11月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・新卒看護実践 ・プリセプター評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ○プログラム運営委員会	12月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ○プログラム運営委員会	1月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・新卒看護実践 ○プログラム運営委員会	2月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・新卒看護実践 ○プログラム運営委員会	3月 ○プリセプター会議 ・到達目標チェックリスト評価 ・プリセプター評価 ・ポートフォリオシート目標設定 ○プログラム運営委員会		